

2006 年度

科目名 哲学 A	対象学科・学年 文学部日文 1 回生 文学部英米 1 回生 文学部文財 1 回生 人間人社 1 回生	担当者 池田 清
授業テーマ 私=自我 映像 知覚 身体 無意識		
授業の概要と目標 十九世紀から二十世紀にかけて、映像技術の発達とは、映画や写真を見るという経験を可能にすることによって、人間と世界の関係、人間同士の関係、さらには自分自身との関係を変質させてきた。現在でも、携帯電話のカメラ機能によってそうした変質は続いている。授業では、そうした様々な関係の変質を論じながら、哲学史上の考え方を紹介しつつ、映像を見るという経験がどのようなものか明らかにしたい。		
評価方法 出席、レポート、本試験から総合的に評価します。		
テキスト テキストは使用しません。適宜資料を配布しますが、講義ノート中心です。	著者	出版社
参考書 授業中、その都度指示します。	著者	出版社
授業スケジュール・内容 【哲学 A】 I 写真・映画小史 ― 複製技術の誕生 II 映像を見る／見せられる私 ― 私の視線／他者の視線 III 私の居場所 ― 私の精神分析 【哲学 B】 IV 他者の居場所 ― 私と他者の出会い／出会い 損ない V 夢を見る／見せられる私 ― 私の無意識と私の分身＝他者 VI 映像と言語言 ― 語化される映像と映像化される言語 ◎ 哲学は、訳の分からない難しい屁理屈でもなければ、現実離れた抽象的な言葉遊びでもありません。実は、日常生活の中で「どういう意味何やろ?」、「何でなんやろ?」と思った時に、もうすでに哲学の世界に一歩足を踏み入れているのです。 われわれは、映画を見たり、写真を見たり、また夢を見たりしていますが、こうした日常的な経験の中で何が起きているのでしょうか。授業では、映画や写真などの映像を見るということは、どういう経験なのかを問題にしながら、その経験を可能にしている様々な要因を洗い出し、くわえて、これまでの哲学史上のテーマ・考え方・概念などを紹介していきます。 その場合、重要なのは、自分自身の日常生活に疑問を抱くことです。この日常生活への反省からすべてが始まります。そのために、二回に一回は授業中に 30 分程度の時間をとってレポートを書いてもらいます。 哲学の授業を有意義かつ面白いものにできるかどうかは、皆さんにかかっています。積極的に授業に参加して下さい。		